

全日本ふぐ連盟

「免許の国家試験化を」

厚労省 調理師団体と連携し推進
報告

日本調理師連合会（大阪府、森口富士夫会長）と全日本ふぐ連盟（滋賀県、大田晶子代表理事）は18日、厚生労働省を訪問し、ふぐ調理師免許の国家試験化に向けて全国の日本料理人、旅館団体などとの連携を強め、署名活動や国会議員への働きかけを進めていくと報告した。

ふぐ調理師免許は、自ラっきがある。全日本ふ

治体によっては講習のみで免許が取得できるなど、全国で資格要件にバ

ラっきがある。全日本ふぐ連盟は、安全安心な食の提供に向けて、国家試験化を求めている。

同連盟の会員である曰い。安全への取り組みは地域ごとの特徴があり、

国が求める基準は満たしている。国家試験化となると議論も大きくなるだろうが、その調整に力を発揮していただきたい」と答えた。



本調理師連合会、全日本調理師協会、京滋調理師連合会、日本団丁道清和四条流の各団体からこのほど、同連盟の副会長を選出した。団体間の結びつきを強め、国家試験化に向けて3万人を目標とする署名活動、国会議員への働きかけを進める。森口会長は一専門店のみで提供していたフグは、昨今は全国的にバッグの形態でも扱うようになってきたと、フグが全国的に流通しているため早急な国家試験化が必要と訴えた。

同省生活衛生・食品安全部の道野英司監視安全課長は「安全に優先度を置いた活動に感謝した

左から道野課長、大田全日本ふぐ連盟代表理事、森口日本調理師連合会会長、山崎良信同専務理事